

○ 事業所名	柿が丘学園		
○ 保護者評価実施期間	令和7年 1月 14日 ~ 令和7年 年 2月 10日		
○ 保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 2
○ 従業者評価実施期間	令和7年 2月 1日 ~ 令和7年 年 2月 28日		
○ 従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○ 訪問先施設評価実施期間	令和7年 1月 14日 ~ 令和7年 年 2月 10日		
○ 訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○ 事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・本人を中心に、訪問先等の状況を踏まえながら、かかわり方や対応方法を深く検討する。	・訪問先での丁寧な観察と支援を心がけるとともに、訪問のたびに児童発達支援管理責任者等に報告し、次の目標や対応について考えている。	・児童発達支援管理責任者だけでなく、専門職(作業療法士)等から助言やコンサルテーションを受けられるようなやり方を検討する。
2	・訪問先で、本人への直接支援を慎重に行い、その様子を踏まえて訪問先等の職員と一緒にわかり方や対応を考える。	・きめ細かい観察にもとに、見通しと意図をもってかかわり、その様子を訪問先の職員に見てもらいながら説明し、一緒に本人への理解を深め、かかわり方を考えている。	・児童発達支援管理責任者等と共有し、さらに効果的な方法を検討していく。場合によっては、児童発達支援管理責任者や作業療法士が同行することも考える。
3	・保護者やご家族と訪問先の関係が円滑で良好なものになるようにかかわる。	・支援のたびに、訪問先と保護者の両者に訪問時の報告やふりかえりの機会を必ず持ち、状況や目標を共有している。	・できるだけ三者面談を設定しているが、他にも効果的なやり方を考える。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や回線が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・初期の本人の様子のアセスメントが不十分な面がある。	・初期の状態把握が訪問先や保護者からの聴取が中心であり、本人の様子や状態を直接確認することが少ない。	・保育所等訪問計画作成時に、本人の様子確認の機会をもつよう努める。
2	・保育所等訪問支援事業に関する情報発信に弱さがある。	・ホームページに説明はあるが、具体的な事業内容を説明する配布物やSNSがない。	・説明や配布の対象を検討し、それに応じた説明資料等の作成等を検討する。
3	・訪問や面談の時間の確保が訪問先に負担になることがある。	・報告や説明を丁寧にするために、できるだけ三者面談の場を設けており、日程調整や時間確保が必要になる。	・できるだけ、訪問先の日程を優先し、調整する。 ・負担があっても訪問や面談等のメリットが感じられるような支援を行う。